

第 7 回講義 (20120615)

§ 4 同一性言明の意味について (続き)

§ § 3 クリプキの議論の検討

4、同一性言明の分類への適用 (再説)

(1)二つの単称確定記述句の同一性:アポステリオリで偶然的

「二重焦点眼鏡を発明した男がアメリカの初代郵政長官であった」(116)

二つの非固定指示子の同一性は、偶然的である。

(2)固有名と単称確定記述句の同一性:アプリアオリで偶然的

「オバマ=2012年のアメリカ大統領」

「1メートル=条件 C における棒 S の長さ」

固定指示子と非固定指示子の同一性も、偶然的である。

これは、指示を固定する定義となる

(3)二つの固有名の同一性:必然的

二つの固定指示子の同一性は、必然的

(3-1)アポステリオリで必然的な場合

「ヘスペラスは、フォスフォラスである」

「キケロはタリーである」

(3-2)アプリアオリで必然的な場合

「 π = 円周の直径に対する比」

両方とも「固定指示子」である。

■Kripke への疑問点

1、「円周の直径に対する比」は固定指示子であろうか。

円周率が、あらゆる可能世界で同じ実数になるかどうかは、「円」「直径」「比」の定義に依存するだろう。たとえば「円とは、平面においてある点から等距離にある点の集合である」と定義するとき、これはあらゆる同種のことを指示する固定指示子になる。つまり「円周率」が固定指示子であるとすると、「円」や「直径」などの一般名も固定指示子であることになる。Kripke は、これを認めるだろう。なぜなら、彼は「黄金」「牛」などの自然種名が固定指示子であることを認めるからだ(後述)。

2、「円周の直径に対する比」は、内包(意味)を持つ。クリプキが、固有名は意味をもたないと考えているのならば、単称確定記述句であることになる。そして、単称確定記述句のなかには、固定指示子と非固定指示子の二種類があることになる。これでよいのだろうか？

3 クリプキは、異なる可能世界では、異なる自然法則が支配している可能性があることをみとめている。クリプキは、異なる可能世界でも、論理法則は同じであると考えている。なぜなら、彼は数学的真理(たとえば、ゴールドバッハの予想が真ならそれは)は必然的である、つまりあらゆる可能世界で成立していると考えからである。数学的真理が必然的であるなら、それが前提する論理法則も必然的である。したがって、「 $6-2$ 」はすべての可能世界で同一の対象を支持するだろう。つまり、これは固定指示である。しかし、これは単称確定記述句であろう。なぜなら、これは意味を持つからだ。

4、「4」と「 $2+2$ 」は同じ対象を指示するが、前者は固定指示子であるとしても、後者は、単称確定記述句ではないだろう

か。もしそうだとすると、「 $2+2=6-2$ 」は単称確定記述句と単称確定記述句からなる同一性言明であることになる。しかし、これはアプリアリで必然的である。

もしこれがいえるならば、上記は次のように変更すべきである。

(1)二つの単称確定記述句の同一性:

(1-1)アポステリオリで偶然的

「二重焦点眼鏡を発明した男がアメリカの初代郵政長官であった」(116)

(1-2)アプリアリで必然的

「 $2+2=6-2$ 」

(2)固有名と単称確定記述句の同一性:

(1-1)アプリアリで偶然的

「オバマ=2012年のアメリカ大統領」

「1メートル=条件Cにおける棒Sの長さ」

(1-2)アプリアリで必然的

「 $4=2+2$ 」

■クリプキは、クワインの分析/総合の区別の批判に反対する。

・クリプキは、必然的/偶然的を明確に区別する。またアプリアリ/アポステリオリを明確に区別する。そして、アプリアリで必然的な言明を分析的とよぶ。ゆえに、クリプキは、分析的言明とその他言明を明確に区別する。

・その他の言明を総合的言明と呼ぶことにすると、総合的言明は、つぎの3種になる。

アプリアリで偶然的 「1メートル=Sの長さ」

アポステリオリで必然的 「エベレスト=ゴーストサンカー」

アポステリオリで偶然的 「オバマ=2012年のUSA大統領」

「クサンチッペ=ソクラテスの妻」

「9=惑星の数」

「USAの初代郵便局長官=二重焦点レンズの発明者」